

酪農体験発表

酪農文化祭の酪農体験発表の最優秀賞でありますので、ここに紙面を持って皆さんに御照会します。

私の酪農経営

高梁市宇治町本郷
長谷川 利雄

私の住んで居ります所は高梁市宇治町で備中高梁駅より西北20km標高450mの高台地で交通の便は非常に悪い処で御座います。

私が酪農を思い付きました動機は水田45（a）畑35（a）採草地120（a）農業可動力2.3人と言う弱少小規模農家である事私の地方の農家平均耕作面積は田畑合計で70（a）と言う零細農家が多う御座いまして生活も楽ではない処からこの少ない農地で生活を豊にする為には畜産の農業経営の中に入取る事であると思ひ、養鶏も研究してみましたが飼料を全部濃厚飼料に依存しなくてはならないので草が飼料の大部分である乳牛にしたら最悪の場合でも90%の山林を持って居る当町では経営を改善する方途は酪農以外にないと思ひまして昭和29年4月に生後4ヶ月の仔牛を同志と計り導入いたしまして今日に至って居ります。

爾後5ヶ年間同志との研究も重ね或は又先輩各位の御指導を仰ぎ只今では乳牛が私の経営の一番大きい収入源となって居ります。2表に示す通りであります。

昭和31年2月、28名の同志で本郷酪農研究会を作りました酪農経営で、最も大きい出資となりますものは飼料費と労力費であり、飼料費の中の購入費を下る事が酪農を有利するポイントで有ると思ひまして、飼料の自給生産計画を立てクラブ員で各々作物別の展示圃を作り其の実績により作付計画をして参りました。

32年度には牛乳販売価格に対し購入飼料費が33%、32年度は28.9%となりました。相当努力いたしましても29%以下にならなかった事は、月別の飼養計画が出来て居なかった事に気付、34年度は月別の生産計画を樹立して特に12月、1月、2月、3月と冬期飼料に重点をおいて計画実施して居ります。第3表に示して居る通りです。

34年度は今日迄の処販売乳代に対し20%位で済して居ります。私が酪農を農業経営の中に入取る事が出来たのはグループ活動により、水田裏作の全面活用と乳牛飼育が初で有る為、改良普及所なり家畜保健所の指導を其のまま受入れた事であると思っております。

宇治町は前にも申し上げました様に高冷地で御座います。従いまして水稻の植付は5月中に90%位い終りますので、水田裏作は導入前はあまり利用してなかつたので御座いますが、乳牛が入りましてからは飼料圃として、農業経営の中に役立たして居ります。私も表に示しております様に25（a）の水稻早期栽培をし、イタリヤンとエン麦残りは紫雲英、苗代前作に冬取りカンランを付全部利用して居りますので、今年は乾草とサイレージは水田裏作だけで十分確保出来ると思っております。

以上が私の酪農で御座いますが、乾草には特に重点を居きクラブ員が協同で採取乾草する計画で、今年真壁式通風乾草機の購入もいたし使用して居ります。

今後私は早期栽培により裏作の高度利用と山からの飼料を取り、成牛1頭当り75,000kgの粗飼料の絶対確保の計画を持って進んで居ります。酪農は一人の力では出来ません、同志が結集した力により宇治町の酪農を一人前のものにしたいと努力して居ります。

第1表

所有地	水田	45 a
	畑	35 a
	採草地	120 a
	山林	145 a

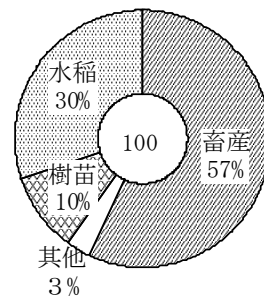
家族	男	4 人
	女	3 人
	農業可動力	2.3人

岡山畜産便り1959.11・12

耕地の 利用 状況	水 田	水 稻	45 a
		裏作飼料作物	45 a
		裏作のみ借用	23 a
	畑 地	飼 料 作 物	20 a
		麦 類	9 a
		山 林 樹 苗	3 a
		其 の 他	3 a

家畜 及び 農 機 具	家 畜	搾 乳 牛 2頭	
		育 成 乳 2頭	
		鶏 5羽	
	農 機 具	発 動 機 1台	糲 摺 機 1台
		脱 穀 機 1台	カッター 1台
		小型耕運機	1台

第2表



表の説明

第1表の裏作のみ借用地とは水稻作付時に犁起すだけで利用し返すもので34年度は23 a 全部紫雲英播種して居る。

第3表の水田裏作付に初めてイタリヤン20 a 作付して居り10月28日現在20cm位の長さとなって居る。

サイロは3基で10月27日にAの分へいもづる詰込を済して居るので1年間に4基分に使用して居る。

34年度の作付としてはビートは作付して居ない。

第3表

昭和34年度月別飼料自給計画表													
作物名	月延面	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		水田裏作	かんらん レーブ ピート 燕麥 れんげ	3 7 4 19 25									
サイロ	A B C					全部詰込							
畑地作物	燕麥 青刈大豆 青刈トウモロコシ テオシントウ 青刈トウモロコシ 蔓取甘藷 甘藷 かぶ レーブ 乾草 稲藁 畦畔雑草	17 10 7 7 6 5 5 10 3 20											
月別生産給与量	6,060 5,860	5,400	6,000	6,000	6,200	7,000	6,600	6,200	6,200	6,300	5,400		
必要量	DCP	79.8 78.0	79.8	90.0	90.0	65.0	90.0	85.5	82.5	80.6	79.0	77.6	
	TDN	642 605	642	820	820	642	820	750	740	735	670	642	
生産量	DCP	80.2 84.2	77.6	106.8	103.6	65.2	90.0	85.6	72.8	57.6	66.0	77.6	
	TDN	805.8 816.8	673.0	696.0	676.0	816.4	816.6	742.4	686.0	884.8	690.8	794.8	
過不足	DCP	+ 0.4 + 6.2	- 2.2	- 16.8	+ 13.6	+ 0.2	-	+ 0.1	- 9.7	- 23.2	- 13.0	-	
	TDN	+163.8 +211.8	+ 31.8	-124.0	-144.0	+174.4	- 3.4	- 7.6	- 54.0	+149.8	- 20.8	-152.8	